

序

21世紀は中国の時代である、と言われることがあります。現状は、それほど中国に楽観的ではありませんが、日本と中国との関係が、現在以上に深まることは間違いないことでしょう。ところが、現在の日本と中国との関係は、歴史認識問題などを理由に、けっして良好とは言えません。日本人の中国への無関心、それと同様に中国人の日本への無関心は、相互の偏見と差別を助長するでしょう。そんなとき、「三国志」は、日本と中国とをつなぐ大きな架け橋になるのではないのでしょうか。

こうした思いから、われわれは2006年に「三国志学会」を設立しました。三国志学会は、第一に、研究者だけではなく、三国志を愛するすべての人に開かれ、その交流の場となることを目指します。第二に、三国時代の歴史・文学・思想・宗教のみならず、『三国志演義』を中心とする三国志文化を学ぶすべてのものを結集することを目指します。第三に、日本・中国・韓国・東南アジアをはじめとするアジアの文化交流の架け橋となることも目指しています。

中国に関する他の分野に比べて、三国志に興味・関心を持っている人々の知識レベルは高く、深いものがあります。われわれ研究者から見ても、納得できるような興味深い考え方を持っている人も多くおられます。ただ、これまではせっかくの深い考えを研究レベルにまで高める方法を指し示す書籍がありませんでした。また、それを発表する場に恵まれていたとも思えません。三国志学会は、本書『三国志研究入門』を監修することにより、多くの人々に三国志研究への手引きを示し、また機関誌『三国志研究』への投稿をお待ちすることにより、発表の場を提供したいと考えております。ご入会・ご投稿など三国志学会の詳細については、ウェブページ (<http://www.daito.ac.jp/sangoku/>) をご覧ください。

みなさまのご入会をお待ちしております。

2007年4月

三国志学会会長	狩野 直禎
三国志学会副会長	金 文京
三国志学会副会長	大上 正美
三国志学会副会長	堀池 信夫